

第四期中期目標前文（修正）

前文

今日の社会情勢は、少子高齢化の進行や自然災害あるいは感染症に対する懸念の増大、デジタル化やグローバル化の進展など急速に変化し、さまざまな課題が多様化・複雑化している。

名古屋市を設立団体とする公立大学法人名古屋市立大学は、知の創造と継承により真理を探究するとともに、それに基づく教育を通じて、社会の発展に貢献する人材を育成する。あわせて、広く市民、行政などと連携、協働して知の拠点として魅力ある地域社会づくりに貢献するとともに、教育・研究の成果を地域及び国際社会に還元し、全ての市民が誇りに思う愛着の持てる大学として活動する。

第四期中期目標期間においては、名古屋市とともに発展する大学として、名古屋市総合計画の掲載事業の推進はもとより、SDGsをはじめ世界規模で発生する高度かつ複雑な課題にも視野を広げて取り組む。また、時代の潮流に柔軟に対応し、産業界や行政などとの連携を一層強化する。こうしたことにより、名古屋市を中心とする地域の諸問題の分析・解決に寄与し、ひいては国際社会へ貢献する。更には、将来にわたって健全で自律的な法人運営を持続し、全学が一体となって社会ニーズに対応した教育・研究・社会貢献・医療に取り組む。これらを通じて、一人ひとりの多様な幸せと社会全体の豊かさの実現をめざし、多様性と包摂性のある持続可能な社会の構築に貢献し、学生や研究者に選ばれ、世界をリードする魅力ある大学をめざす。

以上の考え方に基づき、第四期中期目標期間においては、次の教育・研究・社会貢献・医療の活動に取り組む。

- 1 名古屋市立大学は、自然科学と人文・社会科学との知の融合などにより、高度で専門的な教育の充実に加え、学際的・文理横断的な知を修得させ、広い視野や柔軟な発想力を育むことを通じて、地域の成長・発展に貢献し、国際社会への広い視野を持った次世代をリードする未来志向の人材を輩出する。

- 2 名古屋市立大学は、知の創造の拠点として、全学的な視点から研究力強化に取り組むことによって、地域から地球規模に至る社会課題を解決し、よりよい社会の構築に寄与する。また、企業、国・地方公共団体等との共同研究をはじめ、さまざまな連携を積極的に推進し、さらなるイノベーションの創出に取り組む。
- 3 名古屋市立大学は、地域に根ざし開かれた大学として、社会における多様な主体との連携を一層深め、生涯にわたる学びの環境を創出するなど教育研究成果を還元するとともに、地域の課題及び行政課題の解決に全学的に取り組む。
- 4 名古屋市立大学は、医療人の育成や臨床研究に努めるなど、地域の医療の発展に中核的な役割を果たすとともに、地域の医療機関と連携のもと、附属病院群が一体となって幅広い医療ニーズに応え、質の高い安全な医療を提供しするとともに、~~医療人の育成や臨床研究に努めるなど、地域の医療の発展に中核的な役割を果たし~~、市民の健康と福祉の増進に寄与する。

名古屋市立大学は、これらの取り組みを推進するため、法人の運営に関する情報などを積極的に提供し、説明責任を果たす。また、将来の発展を見据えて、多様な財源を確保するなど財務運営の安定化に取り組むとともに、社会の変化に柔軟に適応できる組織運営を行うことで法人の基盤を強化する。